

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-087	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>A randomized trial comparing telephone versus in-person brief intervention to reduce the risk of an alcohol-exposed pregnancy.</p> <p>アルコール暴露妊娠のリスク軽減を目的とした、電話あるいは面談を用いた短期的介入を比較するランダム化試験</p>		
執筆者		
Wilton G, Moberg DP, Van Stelle KR, Dold LL, Obmascher K, Goodrich J.		
掲載誌		
J Subst Abuse Treat. 2013 Nov-Dec;45(5):389-94. doi: 10.1016/j.jsat.2013.06.006.		
キーワード		PMID
短期介入、アルコール、妊娠、胎児性アルコール症候群		23891460
要 旨		
<p>目的： 飲酒歴がありかつ有効な避妊を行っていない女性における、アルコール暴露妊娠のリスクを軽減するための、有効な短期的介入が必要である。Healthy Choices study では、電話と面談による短期的介入の効果を比較した。</p> <p>方法： 推奨量以上の飲酒がありかつ有効な避妊を行っていない 18～44 歳の女性を、電話群(n=68)あるいは面談群(n=63)に無作為に割当て、それぞれの方法で 6 か月間の短期的介入を行った。</p> <p>結果： 全対象者での介入前後を比較すると、推奨量以上の飲酒頻度は軽微であるものの有意に減少し (100%→84%, p<0.05)、有効な避妊を行っている頻度は大きく増加した (0%→64%, p<0.05)。これらの効果に、電話あるいは面談といった介入方法による差はなかった。</p> <p>結論： アルコール暴露妊娠ひいては胎児性アルコール症候群のリスク軽減に、電話を用いた介入は、面談と同等に有効であるとともに、費用対効果が高い可能性が示唆された。</p>		